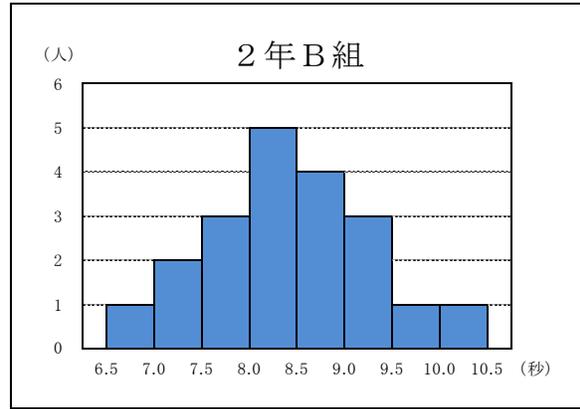
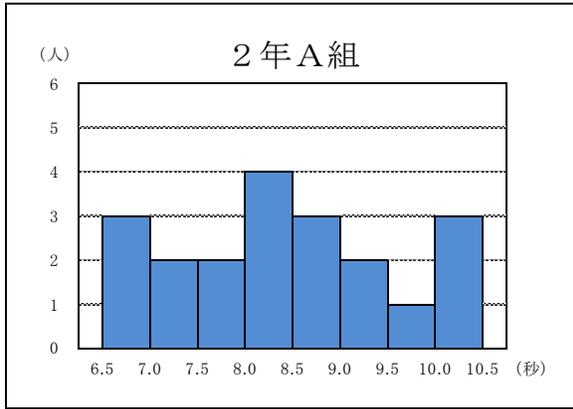


## 教材4-B-(2) 資料の活用、分析

### ② 『ヒストグラムの分析』の解決のために

- ヒストグラムとは、「階級の幅を底辺、度数を高さ」とする長方形を順に並べてかいたグラフ。
  - さいひんち最頻値とは、資料の中で、最も多く出てくるあたひ値。
  - はんい範囲とは、資料の最大の値と最小の値の差の値。
  - 中央値とは、資料を大きさの順に並べたとき、中央にくる値。
- 上記のことを踏まえて、それぞれの設問とヒストグラムを見比べると

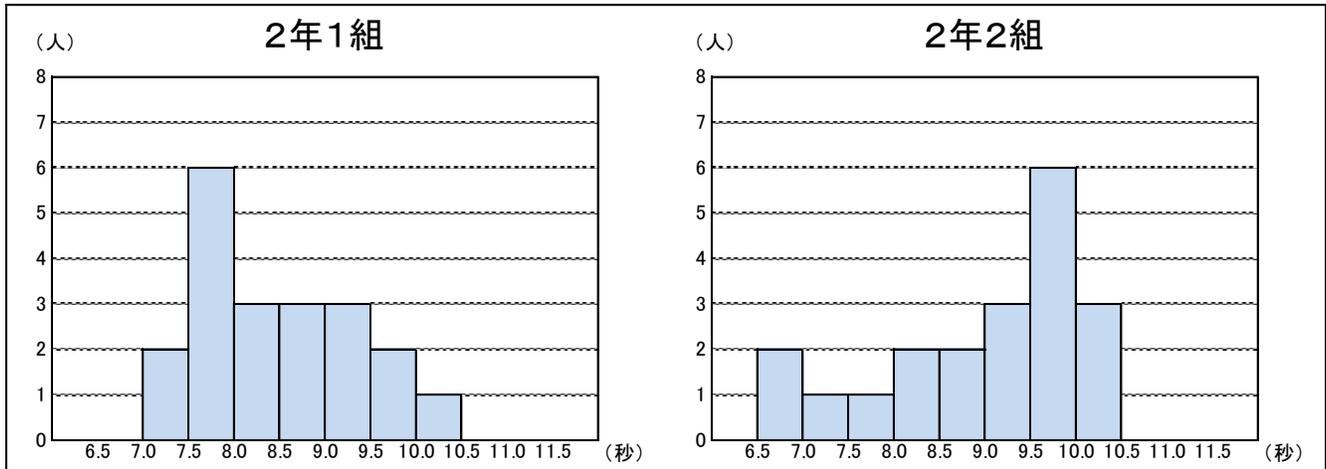


- ① 8秒未満で走ることができる生徒の人数は、2年A組は  人
- 2年B組は  人
- ② 最頻値のふく含まれる階級の相対度数は、2年A組は
- 2年B組は
- ③ 度数の最大の値と最小の値の差は、この場合は読み取れない
- ④ 2年A組の中央値の含まれる階級は
- 2年B組の中央値の含まれる階級は

年	組 名前	

**たしかめよう**

下の2つのヒストグラムは、ある中学校の2年1組と2年2組の男子の50m走のタイムの結果を表したものです。



このヒストグラムから分析すると、どのような傾向や特徴が読み取れますか。次の①～④の中から1つ選びなさい。

- ① ヒストグラムの形が違うので、2つのクラスの総生徒数も異なる。
- ② 最頻値の含まれる階級の相対度数は、2組の方が大きい。
- ③ 7.0秒未満で走ることができる生徒は、2組の方が多いが、8.0秒未満で走ることができる生徒は、1組の方が多い。
- ④ ヒストグラムの形は違うが、中央値の含まれる階級は、どちらのクラスも同じである。